

ひょうたん島通信

大槌発! 第46回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬萊島ほうらいじまという小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。



海と希望の学校 in 三陸

青山 潤 大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター
沿岸保全分野・教授

国際沿岸海洋研究センターを舞台に、大気海洋研究所と社会科学研究所がタッグを組む地域連携プロジェクト「海と希望の学校 in 三陸」がスタートした。海をベースにローカルアイデンティティを再構築し、地域に希望を育む人材を育成しようというものである。ところが、具体的に何をやるのか? ローカルアイデンティティの再構築とは? そもそも希望って何? これまで海洋科学に軸足を置いてきた我々はまさに暗中模索。テキストどころかルールすらない異種格闘技戦に臨む心境であった。それでもやらなくてはならない。なぜなら、東大ビジョン2020に「社会連携」が掲げられたように、大学はこれまで以上に社会や地域に寄り添うことが求められている。加えて、岩手県大槌町に建つ国際沿岸海洋研究センターは、本来の機能を駆使した津波被害の実態調査を進める中で、復興の先にある過疎化・高齢化による「地域の危機」をひしひしと感じてきた。つまり、我々は地域に寄り添うべき大学の構成員であると同時に、自ら未来を切り拓かねばならない地域の一員でもあるのだ。被

災、避難、復旧から新棟の竣工まで、国際沿岸海洋研究センターは間違いなく地域の力を借りてここまで辿り着いた。あれから7年以上が過ぎ、地域がセンターへ寄せる期待も大きく変化している。この状況において「我々はこれまで通り粛々と活動します」という選択肢はない。

前回お伝えした大小島真木氏によるエントランスの天井画「Archipelago of life 生命のアーキペラゴ」。実は大小島さんの了解を得て、制作中にご近所さん限定の見学会なるものを開催した。大槌町全域ではなく、センター周辺の赤浜地区の皆さんにのみ声掛けをしたものだ。それでも当日は100名近い方々をセンターに迎え、大小島さんを楽しませた。会も終わりにさしかかった頃、ある赤浜の住民に肩を叩かれた。「さっきの人、盛岡から来たんだってよ」。どういう訳かはるばる盛岡から参加した人がいたらしい。「こんな素晴らしいモノが近くにあるっていいですねえ。ホントに羨ましいって、ゆってだった(言ってた)」。そう言ったご近所さんの顔はこれまで見たこともな



大気海洋研・渡部寿賀子さんデザインによる「海と希望の学校 in 三陸」のシンボルマーク。好奇心・学びを意味する鉛筆型のマストに、希望の帆を張り上げ、満帆に風を捉えて新たな海へこぎ出すセンターや地域をイメージしている。

いくらいキラキラと輝いていた。岩手県では芸術や文化といえば「内陸・盛岡」という風が極めて強い。その盛岡の住人が「我が赤浜」を羨ましいと言った事が、この人の心に力を与えたのだろう。なるほど、ローカルアイデンティティとはこんなところから生まれるのかもしれない。ということなら……。最近、センターでは海洋生物学者と海洋化学者と海洋物理学者が「海と希望」という共通の話題で大盛り上がりしている。

調査船「弥生のつばやき」

三陸鉄道の車窓から



国際沿岸海洋研究センターの調査船「弥生」と申します。皆様のご支援による竣工から早4年が経ちました。私の業務は沿岸海域の調査・観測ですが、センター界隈の最新トピックをお伝えするこのコーナーも担当しています。

あるおもちゃメーカーが行った調査によると、子どもたちの好きな乗り物ランキング堂々の第1位は電車だそうです。上位ランクインとは縁遠い私「弥生」としては、いささかジェラシーを感じなくてもいいですが、それでも乗り物仲間の新しい門出は大きな喜びです。というのも、震災後、北リアス線(久慈-宮古)と南リアス線(釜石-盛)として運行してきた三陸鉄道が来年3月に全面開通し、北は久慈から南は盛までの三陸沿岸163

kmが「三陸鉄道リアス線」としてひとつに繋がります。

三陸鉄道は、地元の方たちの足でありながら、たくさんの方が押し合いへし合する都心の鉄道とは、少々趣を異にします。がたんごとんと長閑に揺れる1両編成の車両にボックスシート、途中の駅での長めの停車、そしてトンネルを抜けると広がる景色。そこから望む海は、普段とは違って見えるものです。来年は「世界の車窓から」ならぬ「三陸鉄道の車窓

から」皆様にお目にかかりましょう。



吉浜駅付近の車窓から。来年はあの水平線に私を見つけられるかもしれません。

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）